

第1学年 社会科（歴史的分野）学習指導案

1 単元名 武家政権の成長と東アジア「武士の世の始まり」（帝国書院P52～61）

2 単元について

- 本単元は、学習指導要領社会科歴史的分野の内容（3）を受け、鎌倉幕府の成立、南北朝の争乱と室町幕府、東アジアの国際関係、応仁の乱後の社会的な変動などを通して、武家政治の特色を考えさせ、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が全国に広まるとともに、東アジア世界との密接なかかわりがみられたことを理解させることをねらう。

本小単元では、武士の台頭から鎌倉時代の文化と宗教までを取り扱う。「武家政権がどのようにして誕生したか」について考察させることで、御家人制度を基盤とする鎌倉幕府の特徴や、武士が台頭し、やがて「主従の結びつきや武力を背景にして」東国に武家政権が成立したことなど、古代から中世への転換の様子を、古代の天皇や貴族の政治との違いに着目して考察し、自分の言葉で表現できるようにさせる。そのために、学習問題を設定し、個人での考えを深めながら、意思決定を取り入れた討論型の学習活動に取り組みさせることで、社会的な見方・考え方を深めることができる考える。

- 本学級の生徒に、社会科に関するアンケート調査を行ったところ、「社会の授業が好き」または「どちらかというところ好き」と回答した生徒は約7割であった。また、「歴史に興味・関心がある」または「どちらかというところある」と回答した生徒も約6割で、意欲的に学習に取り組んでいる生徒が多いことがわかった。「地図やグラフなどの資料を読み取ることができる」または「どちらかといえばできる」と回答した生徒は約7割であった一方、「資料から分かったことをもとに自分の考えをまとめることができる」そして「自分の考えを、筋道を立ててまとめ文章表現することができる」という質問に対しては、苦手意識をもつ生徒が多かった。授業形態については、「グループでの話し合いや、意見交換をすることが好き」または「どちらかというところ好き」と回答した生徒は約6割であった。

以上の結果から、本学級は思考・判断・表現に課題意識をもつ生徒が多いので、グループでの話し合いや討論型の授業を通して、自分の意見をまとめ、発表する場面を設定する必要があると考える。

- 本小単元では、「つかむ」「調べる」「考え・まとめる」という学習過程を意識して構成する。指導に当たっては、「つかむ」過程で、鎌倉時代が江戸時代の終わりまでの約700年間にわたる武家政権の始まりとなることから、武士の登場から武士が台頭していく過程を追究し、鎌倉幕府が成立していくことを理解させるため、学習問題Ⅰ「武家政権はどのようにして誕生したか」を設定する。

次に「調べる」過程では、教科書や資料集、NHK for Schoolの映像などを通して、学習問題Ⅰを解決するために知識や概念を習得させる。平清盛の政治、源平の争乱、源頼朝による守護・地頭の設置、承久の乱などを通して、武士の力が朝廷や貴族の力を徐々に上回っていき、武家政権が成立していったことを理解させる。その上で、学習問題Ⅱ「武家政権の成立はいつか」を設定し、1185年、1192年、1221年の諸説ある中から、最も有力であると思うものを、資料から読み取ったことを根拠に、理由を付けてして意思決定を促す。

最後に「考え・まとめる」過程では、学習問題Ⅱについてグループ内で討論を行い、グループの主張を基に全体発表につなげ、最終的に自分の意見をまとめさせることで、生徒の思考を深めさせたい。

3 単元の目標

(1) 武士が台頭し武家政権が成立したことや、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことについて関心を高め、意欲的に追究させる。

【関心・意欲・態度】

(2) 武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まったことについて、多面的・多角的に考察させ、考えを表現させる。

【思考・判断・表現】

(3) 武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が次第に全国に広まったことについて、様々な資料を適切に選択させ、活用させる。

【資料活用の技能】

(4) 武士が台頭して武家政権が成立し、武士の支配が全国に広まったことを理解させ、その知識を身に付けさせる。

【知識・理解】

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○武士が台頭し武家政権が成立したことや、鎌倉時代の武士や民衆の成長を背景として社会や文化など中世の歴史的事象に対する関心を高め、意欲的に追究し、武家政権の特色を捉えようとしている。	○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家政権が発展していったという時代の流れを、幕府と朝廷の関係、主従関係の成り立ちなどから多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○武士が台頭し武家政権が成立したこと、鎌倉時代の武士や民衆の動きに関する様々な資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	○武士が台頭し武家政権が成立して、武士の支配が次第に全国に広まり、武家政権が発展していったことを理解し、その知識を身に付けている。

5 単元計画（全6時間 本時1/6）

過程	主な学習活動	教師の働き掛け(○)	主な評価(・)評価の観点【】	時配
つかむ	○教科書に記載されている人物名を確認する。	○平将門、平清盛、源義経、源頼朝の共通点は何かを考えさせる。	・武士の登場から、武家政権の成立まで、なぜ長い時間がかかったのかについて関心をもち、既習事項や教科書、資料集などを根拠にして考え、予想を立てている。 【関】	1
	○武士の登場から鎌倉幕府の成立までの約250年間、武士は何をしていたのか予想したことを基に、学習問題Iを設定する。	○最初の武家政権である鎌倉幕府が成立する前、武士はどのような立場で、どのような役割だったのか予想させることで、学習問題Iを導き出す。		
	【学習問題I】武士の世はどのようにして誕生したか。			

	<p>○関東で平将門が、瀬戸内で藤原純友が起こした乱について調べる。</p> <p>○保元・平治の乱について調べる。</p>	<p>○土地をめぐる争いが起こり、戦いを職業とする武士が誕生したことに気付かせる。</p> <p>○保元・平治の乱の様子を読み取らせ、武士が地方から中央に進出してきたことに気付かせる。</p>		
	<p>○平清盛の政治について調べる。</p> <p>○源平の争乱から鎌倉幕府が成立する過程について調べる。</p>	<p>○平清盛は、藤原氏と同じように、朝廷との関係を深めて政治の実権を握ったことに気付かせる。</p> <p>○源平の争乱に関する資料を読み取らせ、源頼朝は義経との対立に乗じて勢力を伸ばしていくことに気付かせる。</p>	<p>・平清盛が実権をにぎり、日宋貿易に力を入れたことを理解している。</p> <p>【知】</p> <p>・源平の争乱での義経の活躍と、頼朝と対立するまでの流れを読み取っている。</p> <p>【技】</p>	1
調べる	<p>○幕府の仕組みや将軍と御家人の主従関係について調べ、源頼朝が目指した政治について考える。</p> <p>○承久の乱について調べ、勝利した幕府の支配が西国にも及んだことを理解する。</p>	<p>○平清盛の政治と比較させることで、源頼朝が目指した政治について考えるように促す。</p> <p>○承久の乱前後の幕府の勢力を資料から読み取らせ、幕府の勢力が西国に拡大したことに気付かせる。</p>	<p>・鎌倉幕府のしくみを調べ、頼朝と清盛の政治のちがいを、自分の言葉で表現している。</p> <p>【思】</p> <p>・承久の乱後に守護の交代があり、幕府の支配が西国に及んだことを読み取っている。</p> <p>【技】</p>	1
	<p>○鎌倉時代の建築物、彫刻、文学作品などについて調べ、鎌倉文化の特色を理解する。</p> <p>○鎌倉仏教の特色を理解し、民衆に広まった理由について考える。</p>	<p>○鎌倉時代の文化が、力強さや写実的であることから、武士の台頭の影響を受けていることに気付かせる。</p> <p>○鎌倉仏教が現在も広く信仰されている理由を理解させ、民衆に広まった理由について考えさせる。</p>	<p>・鎌倉文化が力強く写実的なことや鎌倉仏教が多くの人々の心を捉えて広まったことについて、武士の台頭と関連づけて考察している。</p> <p>【思】</p>	1
	<p>○武士が台頭し武家政権が誕生した過程についてまとめる。</p>	<p>○武家政権の特色を理解させるために、武士の登場から武家政権の誕生、勢力の拡大について、学習した内容を振り返らせる。</p>	<p>・学習した内容を整理しながら、武家政権の特色を理解している。</p> <p>【知】</p>	1

	○武家政権の成立を 1185 年、1192 年、1221 年とする諸説があることを確認し、資料を読み取りながら学習問題Ⅱを設定し意思決定1を行う。	○守護・地頭についての資料（1185 年説）、征夷大將軍についての資料（1192 年説）、承久の乱についての資料（1221 年説）からそれぞれの主張の違いを読み取らせ、学習問題Ⅱへと導き、意思決定を迫る。	・資料を読み取り、鎌倉幕府の成立に関する 3 つの説の根拠を確認し、学習問題Ⅱについて自分の考えを表現している。 【思】	
	【学習問題Ⅱ】 鎌倉幕府の成立はいつか。			
考え・まとめる	○学習問題Ⅱについて、自分の考えを基にグループ内で討論し、グループの意見をまとめ発表する。 ○各グループの意見を参考に、学習問題Ⅱに対して意思決定2を行う。	○資料から読み取ったことを根拠に理由を付けさせ、思考の深まりと知識の定着を図る。 ○グループ内討論と全体発表を参考に、自分の考えを見直すように伝え、最終的な意思決定をさせる。	・意欲的に討論に参加し、自分の考えを表現している。 【関】 ・討論と全体発表を参考に修正を加え、根拠や理由を付けて自分の考えを記述している。 【思】	1

6 本時の目標

「武家政権はどのようにして誕生したのか」について学習問題を設定し、武士の登場から武家政権の成立までの時代の流れについて予想を立てることができる。

7 展開(全6時間 本時1/6)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 『平治物語絵巻』を読み取り、武士の時代について学習することを確認する。	○武士が活躍する時代の様子について関心をもたせるために、電子黒板に資料を提示し、発問と組み合わせ読み取りを助ける。
めあて 単元の学習問題をつくろう。	
2 教科書から読み取った人物を年表にまとめ、気付きを発表する。	○それぞれの人物が活躍した時期について確認させるために、桓武天皇から源頼朝まで、この時代に活躍した人物を電子黒板の年表に提示する。
3 武士の登場から鎌倉幕府の成立までの約 250 年間、武士は何をしていたのか話し合い、グループの予想を発表する。	○武士の立場や役割について、貴族との違いに注目させながら、生徒の自由な予想を促す。 ○グループによる話し合いを通して、積極的に自分の考えたことを伝え合うように促す。 ○お互いの考えを共有させるために、各グループの発表に対して、「どこから?」と問い返し根拠を説明させたり、「どうして?」と問い返し理由について述べさ

	せたりする。また、「どう思う？」と他の生徒につなげ、対話を促す。
<p>予想される生徒の反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 武士は貴族の家来だった→どのようにして武士と貴族の立場が逆転したのかを調べる。 ・ 貴族が力をもっていた→戦えば武士の方が強い。地位や権威などについて考える。 ・ 朝廷側に強い兵がいた→その兵は貴族なのか？ ・ 武士にはお金がなかった→お金と武力はどう結びつくのか？ ・ 武士は不満がなかった→平将門や藤原純友は不満があったから乱を起こしたのではないか。 	
<p>4 武家政権の誕生までに、どのような出来事があったのかを考え、学習問題 I をつくる。</p>	<p>○追究する視点を立てさせるために、生徒の予想を生かして、これからの学習で確かめたいことをカテゴリー分けする。また、気付きや疑問を生かして、調べる内容を整理させ、学習の見通しをもたせる。 (武士の登場、武士の台頭、鎌倉幕府の成立、幕府勢力の広まり)</p> <p>○各グループの予想を基に、学習問題 I へと導き、確かめたいことや調べてみたいことをまとめさせる。</p>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 【学習問題 I】 武家政権はどのようにして誕生したか。 </div>	
<p>5 教科書や資料集などを使って、平安期の武士の役割について調べる。</p>	<p>○土地をめぐる争いが起こり、戦いを職業とする武士が台頭してきたことに気付かせる。</p>
<p>6 平将門の乱、藤原純友の乱がともに失敗したことから、武家政権はどのようにして誕生したのか考える。</p>	<p>○平将門の乱、藤原純友の乱はともに朝廷の武士により追討されたことから、武士と朝廷との関係を考えさせ、次時につなげる。</p>
<p>7 次時の学習について確認をする。</p>	<p>○次時は、武士の台頭について学習することを確認する。</p>

8 本時の評価

評価規準	<p>「武家政権はどのようにして誕生したのか」について学習問題を設定し、武士の登場から武家政権の成立までの時代の流れを、意欲的に追究しようとしている。 (社会的事象への関心・意欲・態度)</p>		
判断するめやす (判定基準)	<p>十分満足できる状況(A)</p> <p>武士の登場から、武士の世はどのようにして誕生したのかについて関心を持ち、武士の動きを、武士と貴族、朝廷との関わりに注目して予想している。</p>	<p>おおむね満足できる状況(B)</p> <p>武士の登場から、武士の世はどのようにして誕生したのかについて関心を持ち、武士の動きを予想している。</p>	<p>努力を要する状況(C)</p> <p>(B)に達していない状況</p>
→(B),(C)と判断した生徒への支援		<p>→天皇、貴族中心の政治から、武士の政治に変化していくことを確認させる。</p>	<p>→武士の役割の変化について考えさせる。</p>
評価方法	ワークシートの記述、観察		